

# べっふの文化財

No.46  
平成28年3月

—別府に生きる希少野生動植物—



草原に生きる ヒメユリ (絶滅危惧 I Aランク)

別府市教育委員会  
別府市文化財保護審議会

## はじめに

私たちは、緑豊かな自然の中で自然とそれぞれが育む多くの生きものたち、清らかな空気や水、豊穡な土壌など様々な環境とかわり、バランスを保って暮らしている。

ところが、最近は温暖化や時としてもたらされる局地的な豪雨、大気汚染などの環境変化に加えて、農業、畜産業、林業など機械化による産業形態の変化、さらには商業施設や宅地の拡散などで自然環境が大きく変化し、生物の分布にも影響が出てきた。

大分県は、2001年絶滅の危機にある県内の生物をリストアップし、2011年にはその見直しを行って保護を呼びかけてきている。この中には別府市に生育・生息する動植物も数多くあり、その保全が急務となっている。今回、ウォーキングや登山などの野外活動で出会うことの多いと思われる植物56種、動物96種を取り上げて解説した。



扇状地に広がる別府市街

野外に出かけたとき耳にする野鳥の鳴き声、目に留まる花や虫などに注意をはらい、慈しむと同時にその保全に向けた活動の資料として役立てていただきたい。

## 別府の自然の概要

### 1. 生物多様性を取り巻く状況

#### (1) 生物多様性の恵みと危機

##### < 海岸・海浜地域 >

昭和30年代前半まで北浜以北の別府湾岸はクロマツ林の続いた海岸線だったが、今ではほとんど人工的に改変されて、自然海岸は上人ヶ浜の磯と関の江海岸の砂浜を残すのみとなっている。このわずかな磯浜にはナミイソカイメン、タテジマイソギンチャク、ヒザラガイ、ニホンクモヒトデ、カメノテなどの海岸動物が生息し、砂浜ではハマゴウ、コウボウムギ、ハマヒルガオ、ハマエンドウ、ハマイチョウなどが生育する海浜植物群落を見ることができる。

##### < 扇状地・里山地域 >

鶴見岳の山麓を源流域とする春木川、境川、朝見川などの河川は別府の扇状地を形成している。ここは、人々の生活居住地域で住宅、商店などが建ち市街化が進んでいる。その中で市民憩いの場として別府公園、南立石公園、実相寺中央公園など自然を残した公園緑地が設けられているほか、神社や仏閣の境内などは緑地を伴っていて、スダジイ、

イチイガシ、タブノキ、クスノキ、アラカシの巨木に出会うこともあり、林内にはフウラン、キンランなどが希に生育している。なかでも朝見神社の境内林、鶴見権現社の自然林は県の天然記念物に指定され豊かな植物相を誇る緑地である。

市内を流れる河川の中でも生活排水の流入が少ない河内川や冷川などの流域では夏にゲンジホタルが見られる。

市街地を離れた里山の在所、鳥越、赤松、内成、東山地域は水田がひらかれ、棚田がつくられたところもある。

ここはオオイタサンショウウオの生息地として重要な地域である。

いずれも人々とかかわりが強く、自然に対する負荷に配慮が必要である。

#### < 高原地域 >

十文字原、天間高原、松塚高原、由布高原、城島高原などの地域で、ススキやネザサの草原が広がっている。ここは阿蘇、くじゅう地域から連続した火山性高原で、かつて日本列島が大陸と陸続きであったことを証明する大陸系遺存植物の生育する地域である。

以前は牧野として利用され、春には野焼きが行われていた。畜産農家の高齢化と機械化に伴う産業形態の変化によって、野焼きを中止して植林地になったところもあり、生物の生育環境に変化が出て絶滅の危機に

瀕したものもいくつかある。植物ではヒゴタイ、エヒメアヤメ、キスミレなどがあり、動物ではクロシジミ、ギンイチモンジセセリ、カヤネズミ、ハタネズミ、ハヤブサなどが生息しており、草原の維持と大きく関わっている。

また、一部には猪の瀬戸湿原をはじめ、志高湖、神楽女湖などの湿地、湖沼があり、恵まれた水環境の中で生育、生息する生物を見ることができる。面積は狭いが生物にとって良好な環境であり、植物ではミズチドリ、ヒツジグサ、ノハナショウブ、サワギキョウ、ミミカキグサ、モウセンゴケ、シラヒゲソウなど、動物ではカラスシジミ、コオイムシ、オオイタサンショウウオ、ニホンヒキガエル、トノサマガエルなどの多くの絶滅危惧種が生息する極めて貴重な地域である。



朝見神社の社叢



野焼きで維持された猪の瀬戸湿原



## < 山地地域 >

標高 800 m を超える鶴見山系の鶴見岳、鞍ヶ戸、内山、伽藍岳、と由布岳の山腹から山頂にかけての地域で、大部分が阿蘇くじゅう国立公園内に組み込まれている。いずれも火山で山頂部は九州火山山頂帯と呼ばれミヤマキリシマ群落となっている。その下方はツクシヤブウツギ低木林、クマシデ・コナラ等の落葉広葉樹におおわれ、尾根にはアカマツ林の茂る樹林帯である。



豊かな生態系を保持する由布岳

一部観光地化しているが、自然豊かな地域で植物ではイワカガミやツクシヤクナゲ、ヒカゲツツジなどの絶滅危惧種が生育する地域である。最近、ニホンジカが増加して林内の低木や草本植物の食害が顕著になり、絶滅の危機に瀕したものが目立ってきた。動物ではジネズミ、ヤマネ、クマタカ、ジュウイチ、サンコウチョウなどの森林性動物が生息し、生態系の豊かさを物語っている。

### (2) 絶滅危惧種の状況把握について

市内全域の生物について生育状況の総合的な調査は行われていないので、大分県が調査してリストアップした絶滅の恐れのある野生生物について、別府市内での生育状況を取りまとめた。したがって、例えばキスミレのように県内では絶滅危惧種であっても市内では個体数が確保されている種、一方、タイミンタチバナのように別府市が分布の境界近くになっていて危機的状況にあるが、県南部では多く生育している種もいくつかあり、市内の現状とは多少そぐわないカテゴリーのものもある。

掲載種については種名(科名)を記し、2列目に学名を付した。さらに、絶滅危惧の状況について県と環境省のカテゴリーを併記し、危機の原因と種の特徴を極めて簡単に説明した。

## 2. 大分県における絶滅の恐れのある野生生物

カテゴリー	略号
ごく近い将来絶滅の危険性が極めて高い種	I A
I Aほどではないが、近い将来絶滅の危険性が高い種	I B
絶滅の危険性が増大している種	II
現時点では絶滅の危険性は小さいが、生育条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種	準

※野生絶滅(別府市では該当なし)、情報不足については除外した

大分県における絶滅危惧種の選定数

	I A	I B	II	準
シダ植物	30	20	13	22
種子植物	77	178	206	98
哺乳類	2	1	4	7
鳥類	3	12	26	18
爬虫類	1	1	4	1
両生類	1	0	4	2
魚類	2	8	4	7
昆虫類	14	23	32	77
クモ形多足類	1	0	0	12
大型水生甲殻類	3	0	4	5
陸・淡水産貝類	11	16	14	24

レッドデータブックおおいた 2011 〈普及版〉による

## べっぷに生きる絶滅危惧種

### 《希少野生植物》

「レッドデータブックおおいた 2011」に掲載された種の中から、「別府の自然」や「別府市誌」等で取り上げられた種を選び、国立公園指定植物や、県指定希少野生植物など最近の調査データを加えて解説した。掲載はシダ植物、種子植物（単子葉植物→離弁花植物→合弁花植物）の順とした。



ミズスギ（ヒカゲノカズラ科）

*Lycopodium cernum*

大分県 II 環境省 なし

熱帯、亜熱帯性のシダ植物で火山噴気孔の近くの草地や向陽地に生育している。種々の開発行為によって生育地が激減している。



シロヤマゼンマイ

*Osmunda banksiaefolia*

大分県 I A 環境省 なし

低地の小河川のがけ斜面に群生するシダ植物。斜面が急で崩壊しやすく個体数は減少している。大分県では別府市が唯一の産地となっている。





ツクシテンツキ (カヤツリグサ科)

*Fimbristylis dichotoma* subsp. *podocarpa*

大分県 II 環境省 なし

温泉噴気孔近くに生育する。採取の恐れはないが温泉施設の改変工事で消滅することがある。阿蘇くじゅう国立公園指定植物。



コウボウムギ (カヤツリグサ科)

*Carex kobomugi*

大分県 準 環境省 なし

海岸砂丘に生育し、時に群生する。埋め立て等の海岸改変によって砂丘そのものが消滅しつつあり。絶滅の危機にある。



ミドリヨウラク (ユリ科)

*Polygonatum inflatum*

大分県 II 環境省 なし

火山地帯の落葉樹林内の林縁部分に生育する。林外の環境変化の影響を受けやすく減少傾向にある。大陸系遺存植物で、阿蘇くじゅう国立公園指定植物。



キスゲ (ユリ科)

*Hemerocallis catrana* var. *vespertina*

大分県 準 環境省 なし

火山性草原、やや乾いた湿地に生育する。生育地が人工牧野や植林地に変わって、個体数が激減した。阿蘇くじゅう国立公園指定植物。



ヒメユリ (ユリ科)

*Lillium concolor* var. *partheneion*

大分県 IA 環境省 IB

丘陵地や低山地の草地に生育する多年草。繁殖力が弱く、草原湿地の管理放棄や人による採集で消滅した生育地が多い。



エヒメアヤメ (アヤメ科)

*Iris rossii*

大分県 IB 環境省 IB

低地から山地の火山性草原や林縁に生育する。植林や草地改良、野焼きの停止などによる森林化で生育地が縮小している。





ノハナショウブ (アヤメ科)

*Iris ensata* var. *spontanea*

大分県 準 環境省 なし

丘陵地から山地の湿地に生える多年草。花は青紫色、径10cmで目立つため、人の採取などがあり個体数が減少している。



エビネ (ラン科)

*Calanthe discolor*

大分県 I B 環境省 II

各地の林内に多くの生育地が見られたが、植林や人による採取などにより生育している所が少なくなっている。



キンラン (ラン科)

*Cephalanthera falcata*

大分県 II 環境省 II

丘陵地の林縁や林内に生育し、生育地は散在している。森林伐採や植生遷移の進行による環境の変化で、生育地が減少。



ギンラン (ラン科)

*Cephalanthera erecta*

大分県 準 環境省 なし

低地や丘陵地の林縁や林内に生育する。生育地は植生遷移の進行により、生育状態に消長が見られる。



コケイラン (ラン科)

*Oreochis patens*

大分県 準 環境省 なし

溪流辺等の湿地に生育するが、個体数は少ない。春に花茎を伸ばし、頂部に10個ほどの花を咲かせる。生育地の改変や採取等による消滅が危惧される。



ミズチドリ (ラン科)

*Platanthera hologlottis*

大分県 II 環境省 なし

山間の湿地に生育し、6～7月茎頂に多数の白花をつける。個体数が少なく、採取による絶滅が心配される。





カヤラン (ラン科)

*Thrixpernum japonicum*

大分県 準 環境省 なし

山地に生育する樹木の幹に着生し4, 5月頃黄色の花をつける。採取されることが多く個体数は少ない。国立, 国定公園指定植物。



タシロラン (ラン科)

*Epipogium roseum*

大分県 I B 環境省 準

低地の常緑樹林内に生育し, 7月中旬頃白い花を咲かせる。個体数が少なく森林伐採や林内の攪乱により消滅の危機にある。



ノヤナギ (ヤナギ科)

*Salix subopposita*

大分県 準 環境省 なし

火山性草原の風衝地でネザサ群生地に生育している。牧野改変や野焼きの停止等, 生育環境の変化によって生育地が減少している。大陸系遺存植物。



タイリンアオイ (ウマノスズクサ科)

*Asarum asaroides*

大分県 準 環境省 なし

山地の樹林内に生育し, 5月中旬地表近くに暗紫色の花をつける。葉は三角状の広卵形で雲紋があり, 採取の対象となっている。国立, 国定公園指定植物。



フタバアオイ (ウマノスズクサ科)

*Asarum caulescens*

大分県 準 環境省 なし

山地の落葉樹林内にまとまって生育する。花は4月ごろ地表近くの葉の基部に1個つける。「葵の紋」はこの葉の形様による。



ミヤコアオイ (ウマノスズクサ科)

*Asarum asperum*

大分県 準 環境省 なし

丘陵地や低山地の林縁や林内に生育する。花は4月, 淡紫褐色である。植生遷移による生育環境の悪化で個体数が減少。





ミヤマツチトリモチ (ツチトリモチ科)

*Balanophora nipponica*

大分県 II 環境省 II

標高1000m 付近の落葉樹林内に生育する。ウリハダカエデ、イヌシデ等の根に寄生している。花期は7月下旬から8月。オレンジ色の大きな子房が目立つ。



フシグロセンノウ (ナデシコ科)

*Lychnis miqueliana*

大分県 準 環境省 なし

火山地域の丘陵地や低山地の林下にはえる多年草。植生遷移の進行による環境の変化により個体数が減少している。



ヒツジグサ (スイレン科)

*Nymphaea tetragona*

大分県 II 環境省 なし

古い池や沼にみられる多年草。少ない生育地の水環境が悪化し、消滅が懸念されている。6～9月に直径5cmの花をつける。



ヤマシャクヤク (キンポウゲ科)

*Paeonia japonica*

大分県 I B 環境省 II

主として落葉樹林の下にはえ、5月に白色の花を咲かせる。花が淡紅色で、葉の裏に毛のあるものをベニバナヤマシャクヤクという。



オキナグサ (キンポウゲ科)

*Pulsatilla cernua*

大分県 II 環境省 II

日当たりの良い草原に生える多年草。生育地は限られ個体数も少ない。植生遷移の進行や人による採取で消滅が懸念される。



タンナトリカブト (キンポウゲ科)

*Aconitum japonicum* subsp. *napiforme*

大分県 II 環境省 なし

丘陵地から山地の林縁や林内に生育する。花は9～10月に咲き、青紫色である。生育環境の変化により個体数が減少している。



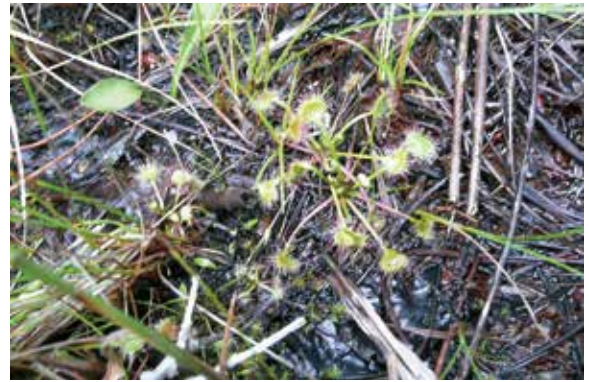


ユキワリイチゲ (キンポウゲ科)

*Anemone keiskeana*

大分県 II 環境省 なし

丘陵地や低山地の林縁や林内生育する。3月頃、3～3.3cmの花をつける。森林伐採や人による採取で消滅が懸念される。



モウセンゴケ (モウセンゴケ科)

*Drosera rotundifolia*

大分県 準 環境省 なし

日当たりの良い酸性湿地にはえる多年草。湿地開発や水環境の変化により生育地が減少し消滅が懸念される。



ウメバチソウ (ユキノシタ科)

*Parnassia palustris*

大分県 準 環境省 なし

山地の日当たりの良い湿地にはえる多年草。花期は8～10月、花は径2～2.5cmで白色である。人の採取で減少している。



シラヒゲソウ (ユキノシタ科)

*Parnassia foliosa* var. *nummularia*

大分県 II 環境省 なし

丘陵地や山地の湿地にはえる多年草。生育地は極めて少ない。湿地開発や人による採取で消滅が懸念される。



ネコノメソウ (ユキノシタ科)

*Chrysosplenium grayanum*

大分県 IB 環境省 なし

丘陵地や低山地の湿地や谷間にはえる。花は淡黄色で4～5月に咲く。水環境が悪化したため衰退した生育地がある。



カスミザクラ (バラ科)

*Prunus verecunda*

大分県 IB 環境省 なし

落葉高木で高さ20mになる。花期は4～5月、花は葉と同時に開き、花弁は白色または微紅色である。県内では別府のみに生育する。





トモエソウ (オトギリソウ科)

*Hypericum ascyron*

大分県 I B 環境省 なし

丘陵地や低山地の草原に生育する。花は大きく、径5cm 花柱は長さ7mm。花弁は黄色で巴形である。大陸系依存植物。



コウライトモエソウ (オトギリソウ科)

*Hypericum ascyron* var. *logistylum*

大分県 I B 環境省 I B

トモエソウが母種で、草丈や花弁の色・形は同じである。トモエソウよりも花柱が長く、1.3～1.7mm があるのが特徴である。



ミズオトギリ (オトギリソウ科)

*Triadenum japonicum*

大分県 II 環境省 なし

湿原にはえる多年草。花は1日性で、午後3～4時に開く。湿地開発や乾燥化により生育地の減少がみられる。



キスミレ (スミレ科)

*Viora orientalis*

大分県 II 環境省 なし

野焼きの終わった火山地帯の草原に生育する。大陸系依存植物で、初春に黄色の花を咲かせる。野焼きの衰退により生育地が減少している。



ホソバシロスミレ (スミレ科)

*Viora patrinii* var. *angustifolia*

大分県 II 環境省 II

低山地の明るい草地の生育し5月に白花をつける。草地の改変や生育環境の変化によって、消滅の危機にある。大陸系遺存植物で個体数が少ない。



イワカガミ (イワウメ科)

*Shortia soldanelloides*

大分県 準 環境省 なし

火山山頂帯の岩場に生育する。5月下旬に花茎を伸ばし、頂部に白い下向きの花をつける。全体が矮小で踏みつけを受けやすい。国立、国定公園指定植物。





ツクシシャクナゲ (ツツジ科)

*Rhododendron degronianum* subsp. *heptamerum*

大分県 準 環境省 なし

山地の林内に生育する常緑低木。4月下旬から5月中旬に淡桃色の花をつける。庭園樹に用いられ、採取の対象になって個体数が減少している。



ヒカゲツツジ (ツツジ科)

*Rhododendron keiskei*

大分県 準 環境省 なし

深山の岩場やがけに生育する常緑低木。5月上旬淡黄色の花をつける。生育地が限られ個体数も少ない。阿蘇くじゅう国立公園指定植物。



ミヤマキリシマ (ツツジ科)

*Rhododendron kiusianum*

大分県 準 環境省 なし

火山山頂帯の風衝地に生育する。植生遷移の進行による環境の変化が生育に影響する。登山者の踏みつけ、採取により減少。



サクラソウ (サクラソウ科)

*Primula sieboldii*

大分県 I B 環境省 II

丘陵地や低山地の湿った草地に生育する多年草。植林や野焼きの停止などによる環境の悪化により絶滅の危険性が高い。



イヌセンブリ (リンドウ科)

*Swertia diluta* var. *tosaensis*

大分県 II 環境省 II

低地や丘陵地の湿地にはえる一年草。花冠白色で淡紫色の条があり、10～11月に咲く。湿地開発で個体数が減少している。



センブリ (リンドウ科)

*Swertia japonica*

大分県 準 環境省 なし

山野の日当たりにはえる一年草、越年草。花冠は白色、8～11月に咲く。薬用として採取されその減少が懸念される。





チョウジソウ (キョウチクトウ科)

*Amsonia elliptica*

大分県 I A 環境省 II

湿った草地にはえる多年草。生育地は極めて希れで生育範囲も狭く、個体数も少ない。環境変化の影響も受けやすい。



スズサイコ (カガイモ科)

*Cynanchum paniculatum*

大分県 準 環境省 II

日当たりの良いやや乾いた草地にはえる多年草。土地開発や野焼きの停止などの環境変化で生育地が減少している。



ホザキノミミカキグサ (タヌキモ科)

*Utricularia caerulea*

大分県 II 環境省 なし

丘陵地の水湿地にはえる多年草。湿地環境の改変や野焼きの停止による環境変化で、生育地の消滅が懸念される。



ムラサキミミカキグサ (タヌキモ科)

*Utricularia affinis*

大分県 I B 環境省 II

湿地の泥上にはえる多年草。生育地は点在し個体数は少ない。植生遷移の進行による環境の変化で絶滅の危険性が高い。



マツムシソウ (マツムシソウ科)

*Scabiosa japonica*

大分県 準 環境省 なし

丘陵地から山地の草原にはえる越年草。野焼きの停止などによる環境の変化により、減少の傾向にある。



キキョウ (キキョウ科)

*Platycodon grandiflorum*

大分県 I B 環境省 II

丘陵地や低山地の草原にはえる多年草。植林や野焼きの停止、人の採取により絶滅の危険性が高くなっている。





サワギキョウ (キキョウ科)

*Lobelia sessilifolia*

大分県 II 環境省 なし

池沼や湿地にはえる無毛の多年草。湿地改変や乾燥化による植生の遷移により生育地の消滅が懸念される。



アソノコギリソウ (キク科)

*Achillea sibirica* subsp. *subcartilaginea*

大分県 準 環境省 II

丘陵地や低地の草原にはえる多年草。野焼きの停止による植生遷移の進行や人工牧野への改変で減少の傾向にある。



チョウセンスイラン (キク科)

*Hololeion maximowiczii*

大分県 I B 環境省 なし

火山地帯の湿地に生育しているが、野焼きの停止や土地の改変によって生育地が減少し絶滅の危機にある。大陸系依遺存植物。



ツクシタンポポ (キク科)

*Taraxacum kiushianum*

大分県 I B 環境省 I B

山地の林縁や路傍に生育する。在来種のタンポポで、個体数が少なく、踏みつけや外来種との競合で減少傾向にある。



ヒゴタイ (キク科)

*Echinops setifer*

大分県 I B 環境省 II

火山性草原に生育し、8月下旬から9月に青藍色で球形の花序をつける。野焼きの停止や人工牧野への改変により個体数が激減している。大陸系遺存植物。



ホソバオグルマ (キク科)

*Inula britannica* subsp. *linariaefolia*

大分県 II 環境省 II

低地や山間地のやや湿った土地に生育する。湿地の改変や植林事業で生育地環境が変化し、個体数の減少傾向が見られる。大陸系遺存植物。



《希少野生動物》

ここでは、過去の文献で生息が確認されている種を取り上げ、海産動物は含まず陸生のもを中心に列挙している。また、種の希少性として大分県「レッドデータブックおおいた2011」(大分県RDB)のカテゴリーを用いているが、同定されてない種や地域個体群の種については掲載を割愛した。その他は大分県RDBに準拠し、種の掲載については分類体系順に縦列記載した。

哺乳類9種, 鳥類28種, 爬虫類1種, 両生類3種, 昆虫類40種, クモ形多足類6種, 陸・水生産貝類9種の計96種。

<哺乳類>

ジネズミ (トガリネズミ科)

*Crocidura dsinezumi dsinezumi*

大分県 準 環境省 掲載なし

日本列島には5亜種が存在するが、当地での生息は本亜種サイゴクジネズミとされている。

キクガシラコウモリ (キクガシラコウモリ科)

*Rhinolophus ferrumequinum*

大分県 準 環境省 掲載なし



キクガシラコウモリ

コキクガシラコウモリ (キクガシラコウモリ科)

*Rhinolophus cornutus*

大分県 準 環境省 掲載なし

ユビナガコウモリ (ヒナコウモリ科)

*Miniopterus fuliginosus*

大分県 準 環境省 掲載なし

ヤマネ (ヤマネ科)

*Glirulus japonicus*

大分県 I A 環境省 準

日本固有種であり、北海道には生息しないのでブラキストン線を裏付ける種となっている。

スミスネズミ (ネズミ科)

*Eothenomys smithii*

大分県 II 環境省 掲載なし

ハタネズミ (ネズミ科)

*Microtus montebelli*

大分県 準 環境省 掲載なし

カヤネズミ (ネズミ科)

*Micromys minutus*

大分県 準 環境省 掲載なし

ニホンイタチ (イタチ科)

*Mustela itatsi*

大分県 準 環境省 掲載なし

<鳥類>

チュウサギ (サギ科)

*Egretta intermedia*

大分県 準 環境省 準

クロサギ (サギ科)

*Egretta sacra*

大分県 準 環境省 掲載なし

ミサゴ (タカ科)	ヤマドリ (キジ科)
<i>Pandion haliaetus</i>	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>
大分県 準 環境省 準	大分県 準 環境省 準
.....	日本固有種で、5亜種を含むが、大分県の生息は亜種アカヤマドリ <i>S.s.soemmerringii</i> とされている。
オオタカ (タカ科)	.....
<i>Accipiter gentilis</i>	ヒクイナ (クイナ科)
大分県 II 環境省 準	<i>Porzana fusca</i>
.....	大分県 II 環境省 II
ツミ (タカ科)	.....
<i>Accipiter gularis</i>	タマシギ (タマシギ科)
大分県 II 環境省 掲載なし	<i>Rostratula benghalensis</i>
.....	大分県 準 環境省 掲載なし
ハイタカ (タカ科)	.....
<i>Accipiter nisus</i>	コチドリ (チドリ科)
大分県 準 環境省 掲載なし	<i>Charadrius dubius</i>
.....	大分県 準 環境省 掲載なし
ノスリ (タカ科)	.....
<i>Buteo buteo</i>	シロチドリ (チドリ科)
大分県 準 環境省 掲載なし	<i>Charadrius alexandrinus</i>
.....	大分県 準 環境省 掲載なし
サシバ (タカ科)	.....
<i>Butastur indicus</i>	ホウロクシギ (シギ科)
大分県 II 環境省 II	<i>Numenius madagascariensis</i>
.....	大分県 II 環境省 II
クマタカ (タカ科)	.....
<i>Spizaetus nipalensis</i>	コアジサシ (カモメ科)
大分県 I B 環境省 I B	<i>Sterna albifrons</i>
森林生態系の頂点に位置するが、開発等による餌不足等から個体数は減っている。当地では内山溪谷で確認されている。	大分県 I A 環境省 II
.....	日本には本州以南に夏鳥として渡来。当地には近年、春秋に旅鳥として飛来する。
ハイイロチョウヒ (タカ科)	.....
<i>Circus cyaneus</i>	ジュウイチ (カッコウ科)
大分県 準 環境省 掲載なし	<i>Cuculus fugax</i>
.....	大分県 II 環境省 掲載なし
ハヤブサ (ハヤブサ科)	
<i>Falco peregrinus</i>	
大分県 II 環境省 II	



アオバズク（フクロウ科）

*Ninox scutulata*

大分県 準 環境省 掲載なし

フクロウ（フクロウ科）

*Strix uralensis*

大分県 II 環境省 掲載なし



フクロウ

アマツバメ（アマツバメ科）

*Apus pacificus*

大分県 準 環境省 掲載なし

サンショウクイ（サンショウクイ科）

*Pericrocotus divaricatus*

大分県 II 環境省 II

基亜種は本州以南に夏鳥として飛来する。亜種リュウキュウサンショウクイは留鳥として沖縄島に生息している。

コルリ（ツグミ科）

*Luscinia cyane*

大分県 II 環境省 掲載なし

クロツグミ（ツグミ科）

*Turdus cardis*

大分県 準 環境省 掲載なし

キビタキ（ヒタキ科）

*Ficedula narcissina*

大分県 準 環境省 掲載なし

サンコウチョウ（カササギヒタキ科）

*Terpsiphone atrocaudata*

大分県 準 環境省 掲載なし

ホオアカ（ホオジロ科）

*Emberiza fucata*

大分県 準 環境省 掲載なし

<爬虫類>

ニホンイシガメ（バタゲールガメ科）

*Mauremys japonica*

大分県 準 環境省 情報不足 DD



ニホンイシガメ

<両生類>

オオイタサンショウウオ（サンショウウオ科）

*Hynobius dunni*

大分県 II 環境省 II

日本固有種であり主産地は大分県だが、飛び的に土佐清水市や宮崎市などに分布。20年前に市内30数箇所あった繁殖地は、開発等により年々減少している。

トノサマガエル（アカガエル科）

*Pelophylax nigromaculata*

大分県 II 環境省 掲載なし

ニホンヒキガエル（ヒキガエル科）

*Bufo japonicus japonicus*

大分県 準 環境省 掲載なし

主に西日本に生息する固有亜種であり、東日本には亜種アズマヒキガエルが生息する。



トノサマガエル

<昆虫類>

オツネトンボ (アオイトトンボ科)

*Sympecma paedisca*

大分県 準 環境省 掲載なし

コオイムシ (コオイムシ科)

*Diplonychus japonicus*

大分県 II 環境省 準

シロヘリツチカメムシ (ツチカメムシ科)

*Canthophorus nivemarginatus*

大分県 II 環境省 準

アカアシクチフトカメムシ (カメムシ科)

*Pinthaeus sanguinipes*

大分県 準 環境省 掲載なし

ホソハンミョウ (ハンミョウ科)

*Cicindela gracilis*

大分県 II 環境省 準

ルイスハンミョウ (ハンミョウ科)

*Cicindela lewisi*

大分県 I B 環境省 II

海浜性昆虫で、以前までは関の江海岸で確認されていたが、近年は確認されていない。

クロカタビロオサムシ (オサムシ科)

*Calosoma maximowiczi*

大分県 II 環境省 掲載なし

セアカオサムシ (オサムシ科)

*Hemicarabus tuberculosus*

大分県 II 環境省 掲載なし

コガタノゲンゴロウ (ゲンゴロウ科)

*Cybister tripunctatus orientalis*

大分県 II 環境省 I

ムネアカセンチコガネ (ムネアカセンチコガネ科)

*Bolbocerosoma nigroplagiatum*

大分県 準 環境省 掲載なし

ゴホンダイコクコガネ (コガネムシ科)

*Copris acutidens*

大分県 準 環境省 掲載なし

ダイコクコガネ (コガネムシ科)

*Copris ochus*

大分県 II 環境省 準

ヒゲコガネ (コガネムシ科)

*Polyphylla laticollis*

大分県 準 環境省 掲載なし

オオチャイロハナムグリ (コガネムシ科)

*Osmoderma opicum*

大分県 準 環境省 準

アカマダラコガネ (コガネムシ科)

*Poecilophilides rusticola*

大分県 II 環境省 情報不足 DD

クロマダラタマムシ (タマムシ科)

*Nipponobuprestis querceti*

大分県 I B 環境省 掲載なし

平野部などの河川周辺のエノキに生息するとされるが、個体数が非常に少ない。



ケブカヒラタカミキリ (カミキリムシ科)

*Nothorhina punctata*

大分県 I B 環境省 掲載なし

高原のクロマツ老木に生息するとされるが、  
個体数が非常に少ない。

ヒコサンヒゲナガコバナカミキリ (カミキリムシ科)

*Glaphyra nitida adachii*

大分県 準 環境省 掲載なし

ムラサキアオカミキリ (カミキリムシ科)

*Schwarzerium viridicyaneum*

大分県 準 環境省 準

ヨコヤマトラカミキリ (カミキリムシ科)

*Epiclytus yokoyamai*

大分県 準 環境省 掲載なし

モンクロベニカミキリ (カミキリムシ科)

*Purpuricenus lituratus*

大分県 I B 環境省 掲載なし

枝郷から内成にかけてのクヌギ林に確認され  
ている。発生期が短いこともあって目にするこ  
とが難しく、個体数も減っている。



モンクロベニカミキリ

ヨツボシカミキリ (カミキリムシ科)

*Stenygrinum quadrinotatum*

大分県 準 環境省 II

イネネイクイハムシ (ハムシ科)

*Donacia provostii*

大分県 準 環境省 掲載なし

オオセイボウ (セイボウ科)

*Stilbum cyanurum pacificum*

大分県 準 環境省 掲載なし

本土亜種であり、「空飛ぶ宝石」と呼ばれ、  
スズメバチの巣に寄生するとされる。

クロバネツリアブ (ツリアブ科)

*Ligyra tantalus*

大分県 準 環境省 掲載なし

ギンイチモンジセセリ (セセリチョウ科)

*Leptalina unicolor*

大分県 準 環境省 準

ツマグロキチョウ (シロチョウ科)

*Eurema laeta betheseba*

大分県 準 環境省 II

本土亜種でマメ科のカワラケツメイのみを食  
草とする。

ゴマシジミ (シジミチョウ科)

*Maculinea teleius daisensis*

大分県 I B 環境省 II

7 亜種ある中の中国地方九州亜種であり、由  
布岳一帯で確認されているが、個体数は極めて  
少ないと考えられている。幼虫はワレモコウを  
食草とする。

クロシジミ (シジミチョウ科)

*Niphanda fusca*

大分県 I B 環境省 I

由布・鶴見岳一帯の草原では個体数の減少が  
続いている。クロオオアリが訪れるアブラムシ  
の多い草木に産卵する。

カラスシジミ (シジミチョウ科)

*Strymonidia w-album fentoni*

大分県 準 環境省 掲載なし

本土亜種で、ニレ科などを食樹とする。

ウラムスジシジミ (シジミチョウ科)

*Wagimo signatus*

大分県 II 環境省 掲載なし

オナガシジミ (シジミチョウ科)

*Araragi enthea enthea*

大分県 準 環境省 掲載なし

オオウラギンヒョウモン (タテハチョウ科)

*Fabriciana nerippe*

大分県 I B 環境省 I

山地草原に生息し、近年急速に個体数を減らしている。食草はスミレなどで、暖地では夏眠する。

ホシミスジ (タテハチョウ科)

*Neptis pryeri setoensis*

大分県 準 環境省 掲載なし

近年の研究により5亜種が存在し、当地の生息は瀬戸内海亜種とされている。

オオムラサキ (タテハチョウ科)

*Sasakia charonda charonda*

大分県 II 環境省 準

本土亜種で、食樹はエノキ等。

キマダラモドキ (ジャノメチョウ科)

*Kirinia fentoni*

大分県 II 環境省 準

ウラナミジャノメ (ジャノメチョウ科)

*Ypthima multistriata nipponica*

大分県 II 環境省 II

本土亜種で、食草はカヤツリグサ等。

ヒメスズメ (スズメガ科)

*Deilephila askoldensis*

大分県 準 環境省 掲載なし

ウスイロキヨトウ (ヤガ科)

*Mythimna inalis*

大分県 準 環境省 掲載なし

ヒメシロシタバ (ヤガ科)

*Catocala nagioides*

大分県 II 環境省 掲載なし

### <クモ形多足類>

コガネグモ (コガネグモ科)

*Argiope amoena*

大分県 準 環境省 掲載なし

本州以南に生息分布し、造網性のクモである。地域によってはクモ合戦などの行事で登場する。普通種とする地域もあるが、大分県では減少傾向にある。

チュウガタコガネグモ (コガネグモ科)

*Argiope boesenberg*

大分県 準 環境省 掲載なし

イエオニグモ (コガネグモ科)

*Neoscona nautica*

大分県 準 環境省 掲載なし

アカオニグモ (コガネグモ科)

*Araneus pinguis*

大分県 準 環境省 掲載なし

カマスグモ (アシダカグモ科)

*Thelcticopis severa*

大分県 準 環境省 掲載なし



フノジグモ (カニグモ科)

*Synaema globosum japonicum*

大分県 準 環境省 掲載なし



フノジグモ

<陸・水生産貝類>

ゴマオカタニシ (ゴマオカタニシ科)

*Georissa japonica*

大分県 準 環境省 準

ツブカワザンショウガイ (カワザンショウガイ科)

*Assiminea estuarina*

大分県 I B 環境省 掲載なし

河口部のヨシ原湿地の砂利底を生息地としているが、埋め立てなどで個体数が減少している。

タケノコカワニナ (トウガタカワニナ科)

*Stenomelania rufescens*

大分県 I A 環境省 II

南日本の汽水域に生息する固有種で、内竈にある温水川に生息しているが、近年住宅開発の影響を受けている。



タケノコカワニナ

オカミミガイ (オカミミガイ科)

*Ellobium chinense*

大分県 I B 環境省 II

河口部のヨシ原湿地を生息地としている。水中に入ることはほとんどない。種小名は産地の一つである「中国」に由来する。

ナラビオカミミガイ (オカミミガイ科)

*Auriculastra duplicata*

大分県 I B 環境省 II

「並陸耳貝」。汽水域の塩性湿地に生息し、暗く湿った場所を好む。光沢のある貝殻を持ち、オカミミガイ科としては小型。

キヌカツギハマシイノミガイ (オカミミガイ科)

*Melampus(Melampus) sincaporensis*

大分県 I B 環境省 II

「衣被浜椎の実貝」。汽水域の塩性湿地に生息し、姿がサトイモの小芋「きぬかつぎ」に似ることに由来。

クリイロコミミガイ (オカミミガイ科)

*Laemodonta siamensis*

大分県 I B 環境省 I

「栗色小耳貝」。ヨシ原域に生息し、半分埋まった石の下に潜む。

オキモドキギセルガイ (キセルガイ科)

*Mesophaedusa okimodoki*

大分県 準 環境省 準

テラマチベッコウマイマイ (ベッコウマイマイ科)

*Bekkochlamys teramachii*

大分県 準 環境省 準

## おわりに

ふるさと別府市は、海岸地域から 1,583.5m の由布岳山頂まで、高原あり、里山あり、河川や湖沼もある自然豊かなところで、一部は阿蘇くじゅう国立公園に組み込まれている。そこには、日本列島が大陸と陸続きであったことを証明する大陸系遺存植物やヒメユリやヒゴタイ、クロシジミのように希少種として県の指定を受けて保護されている生物も見られる。これらの貴重な生物の保護を目的として大分県版レッドデータブックが編纂され、10年ごとに見直し調査が行われている。

その中から、今回は動植物あわせて 152 種をとりあげたが、別府市が独自に絶滅の危機的状況を把握するための調査をしたわけではなく、筆者らが日常の研究活動で得た情報をもとに、比較的身近なものを選定して編集した。カテゴリーの内訳をみると植物は I A が 3 種、I B が 14 種、II が 18 種、準が 21 種であり、動物は I A が 3 種、I B が 13 種、II が 26 種、準が 54 種である。分野別に希少種の生育状況を調査すれば、さらに多くの絶滅危惧種が明らかになるとと思われる。

種の絶滅は地球規模で進行しており、絶滅種の増加を回避することは喫緊の課題である。別府市として独自の調査がなされ生物の多様性が維持され推進されることを期待したい。

この冊子を作成するにあたって写真提供いただいた河室信義（ツクシタンポポ）、足立高行（キクガシラコウモリ、ニホンイシガメ）、高野橋豊（フクロウ）、金只遼太郎（モンクロベニカミキリ、フノジグモ）の各氏に厚く謝意を表す。

多くの市民が野外活動をおこなう時、この冊子を事前学習資料として活用していただき、絶滅の危機に瀕している貴重な生物が一種でも多く保護されることを願っている。

## 参考文献

- 猪の瀬戸湿原自然環境学術調査報告書：1993，大分県・別府市  
奥別府の自然：1974，別府市  
新版大分県植物誌：1989，大分県植物誌刊行会  
生物多様性おおい県戦略：2011，大分県  
日本植物誌（顕花篇）：1875，大井次三郎，至文堂  
別府市誌：2003，別府市  
別府の自然：1994，別府市  
レッドデータブックおおい：2001，大分県  
レッドデータブックおおい・普及版：2002，大分県  
レッドデータブックおおい 2011・普及版：2012，大分県

執筆者（別府市文化財保護審議会委員）

小 田 毅（植物）  
藤 内 広 三（植物）  
堀 英 樹（動物）



べっぷの文化財 No. 46  
—別府に生きる希少野生動植物—

平成 28 年 3 月

発 行 別府市教育委員会  
編 集 別府市教育委員会  
別府市文化財保護審議会  
印 刷 大野印刷株式会社